

南米移住者里帰り 歓迎レセプション

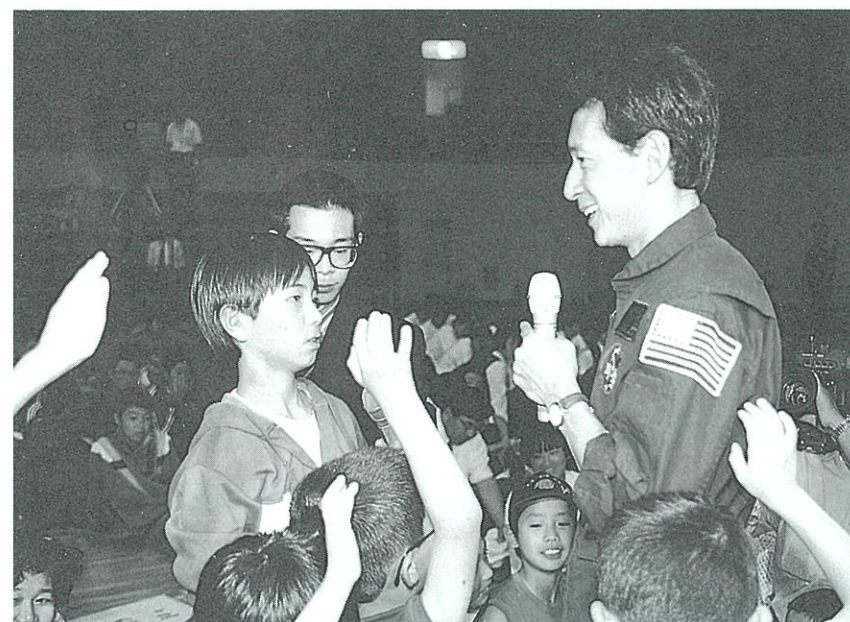
8月3日、県の南米移住者里帰り事業で招待された移住者12人の歓迎レセプションが盛岡市内のホテルで行われた。

同事業は、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンに移住した県出身者のうち、65歳以上でまだ一度も里帰りの機会がなかった人を対象に昭和56年から始められたもので、里帰りした人は今回で142人となった。

レセプションでは、南米などから来県中の留学生や研修員も参加し、アトラクションや懇談のひと時を楽しんだ。



▲レセプションであいさつする工藤知事



▲毛利さんを囲んでの「宇宙授業」

宇宙への夢膨らむ 毛利さん宇宙授業

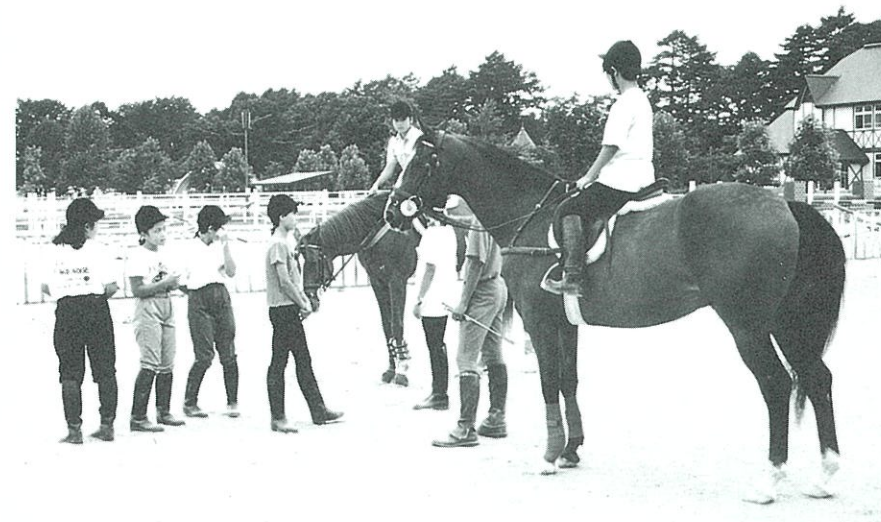
8月4日、盛岡市のアイスアリーナで、日本人として2人目の宇宙飛行士、毛利衛さんの「宇宙授業」が行われた。毛利さんは、スペースシャトル内での日常生活や実験内容などをビデオやスライドで分かりやすく説明し、会場に集まった3,000人の子どもたちは目を輝かせ、一心に説明に聞き入っていた。質問コーナーでは子どもたちから次々と質問が飛び出し、毛利さんは「皆さんが大きくなって宇宙に飛ぶことを期待します」と笑顔で応えていた。

葛飾と岩手の児童 ポニーを通じ交流

8月8日から10日までの3日間、滝沢村のポニースクール岩手で、東京都の「ポニースクールかつしか」の児童19人と、ポニースクール岩手のジュニアメンバー20人との青少年交歓交流会が行われた。

この交流会は、日頃の活動の成果を披露し合い、交流を深めようと、今年初めて開催されたもの。

児童たちは、騎乗練習や厩舎作業、キャンプや八幡平の野外視察などを通じて交流を深め、岩手の夏を満喫していた。



▲ポニースクール岩手を会場に行われた交流会

交通緩和に大きな力 待望の日高見橋開通

北上市で建設されていた国道107号の日高見橋が完成し、8月5日に開通式が行われた。開通式には県や市、地元関係者など約800人が集まり、完成を祝った。

この日高見橋は、狭く、老朽化した従来の珊瑚橋に変わるものとして、昭和62年から6年の歳月と総工費約36億円をかけ、架け替えの工事が行われていたもの。この橋の完成が、交通渋滞の緩和と北上中部拠点都市の発展に大きく貢献するものと期待されている。



▲日高見橋の完成を祝い「渡り初め」が行われた

県政ことばあれこれ

異業種連携技術開発促進事業

業務内容が異なる3社以上の中小企業の方々が、それぞれ持っている技術や経営に関する知識などを組み合わせ、共同して、新しい製品やその技術を開発しようとする際に、その開発に必要な経費の一部を補助しようというものです。

これは、中小企業の方々の技術力や研究開発力の向上を支援する制度で、今までに、新しい味覚の清酒の研究開発などに利用されています。

多面的需要対応稲作推進事業

最近、米の需要は主食用や加工原料用など用途が多様化する傾向にあります。そのため、生産者には、消費者のニーズに合わせたさまざまな米づくりが求められています。この事業では、こうした需要に的確に対応するため、県や市町村、農業団体が主体となり、県産米に対する市場での評価を分析し、生産者へきめ細かい指導を行います。また、消費者と生産者の交流を深め、「いわて純情米」が消費者に浸透するように図ります。

「日本一の炭の里づくり」構想

近年、燃料以外のさまざまな利用方法で脚光を浴びている木炭。県北部を中心に生産が盛んであり、現在、本県は日本一の生産量を誇っています。この木炭を用いて地域の活性化を図ろうというのがこの構想。九戸高原周辺地域で進められています。木炭の生産施設や研究・開発施設の充実、また「木炭城」など交流の場の整備など、森林資源を総合的に活用し、新たな木炭文化の発信基地づくりを行います。

大規模自転車道整備事業

近年、散策やスポーツを目的として自転車を利用する方が増えています。

この事業は、自然公園や旧所、名跡などを結ぶコースを整備し、自転車を利用する方の安全を確保するとともに利用者の健康づくりのお手伝いをしようというものです。

北上花巻温泉自転車道と盛岡広域自転車道に続き、現在は遠野市と東和町の田瀬湖間を結ぶ延長29.8kmで整備が進められています。